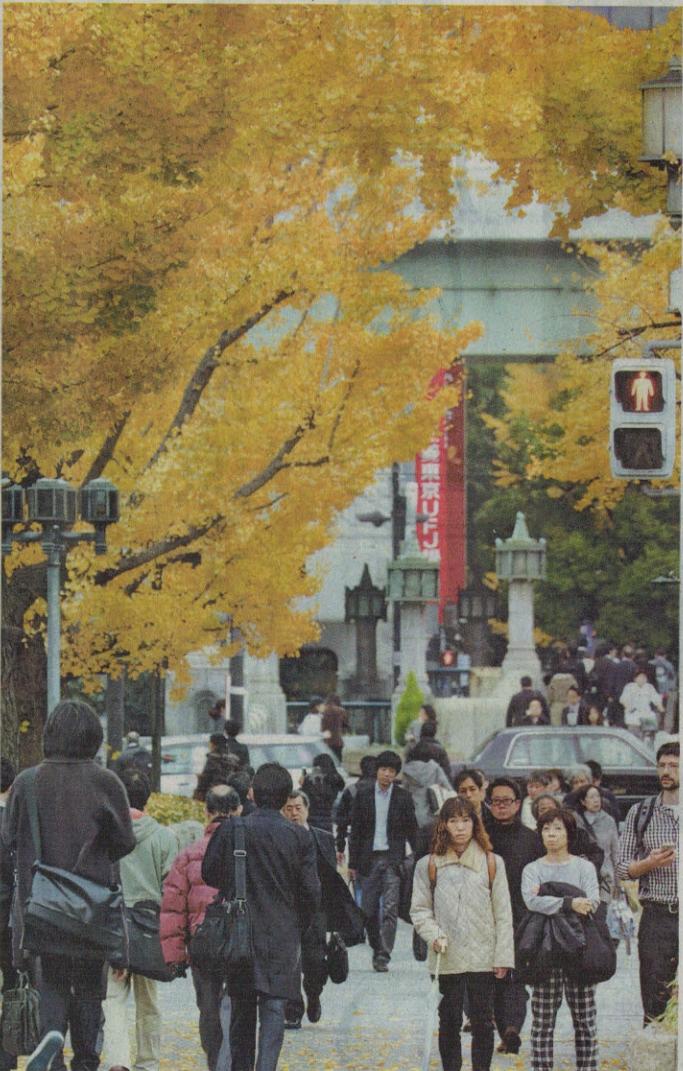


紅葉見頃 クリスマスに?

地球温暖化への危機感が世界で高まる中、日本でも大雨や猛暑日が増えるなどの異変が生じている。日本の平均気温は世界平均を上回るペースで上昇しており、専門家からは「2050年には京都の紅葉の見頃がクリスマスの時期になる」との予測も出している。



「東京で最高気温40度超、真夏日連続50日以上、熱中症死者6500人」
猛暑が10月中旬まで続き、京都の紅葉の見頃はクリスマスの時期に」。
これらは、現在のペースで温室効果ガスが増え続けた場合、専門家が予測する50年の日本の状況だ。

国立環境研究所の江守正多・気候変動リスク評価研究室長は「現在より夏が1ヶ月長くなる」と予測。さらに大気中の水蒸気量が増えることで勢力が強くなる「スーパー台風」が頻発するという。

既に前兆は表れている。最高気温が35度以上の真夏日の日数が増加。総務省消防庁によると、今年7月の熱中症による救急搬送の人数は約2万5千人に上り、7月としては過去最多とな

2050年京都 進む温暖化、専門家予測

つた。昨年8月には、広島市で観測史上最高となる1時間の降水量101ミリを記録し、土砂災害で70人以上が死亡した。

江守室長は「大雨が降りやすくなり、水害は増えた。さらに怖いのは南極の氷が解けて世界的に海面が40cmも上昇すること」と警鐘を鳴らす。

気象庁によると、14年の世界の年平均気温は、1981年から2010年までの平均基準と比べ、プラス0・27度となり統計開始以降最高となつた。日本ではこの年はプラス0・14度だったが、統計開始以降みると100年に約1・14度のペースで上昇しており、このペースは世界の0・7度を上回っている。

世界気象機関(WMO)のジャロー事務局長は声明

12月中旬になつても鮮やかな黄色をみせる御堂筋のイチヨウ

16日、大阪市北区(門井 聰撮影)